



学校  
トイレ事例

02  
改修

埼玉県ふじみ野市

## ふじみ野市立大井西中学校 ふじみ野市立駒西小学校

限られたスペースでできる  
最大限の快適さを追求

近年多発する  
水害を考慮した改修

2019年10月に発生した令和元年東日本台風(台風19号)。東日本を中心に、広い範囲で大雨、暴風、高波、高潮をもたらし、住家被害や電気・水道・道路・鉄道などライフラインにまで被害が及びました。ふじみ野市内でも床上浸水などの水害が発生し、一時期は体育館を避難所として開設する場面もありました。

ふじみ野市では昭和40年から50年にかけて建築された体育館が多く、老朽化対策が課題となっていました。それまで耐震化に向けた改修は順次行っていました。台風19号の被害を受けて、地域住民の避難環境改善や防災機能の強化を求める声が急速に高まり、市内の小中学校全19校の体育館の大規模改修を決定しました。

防災機能を高めるに当たって、体育館では主に、①夏場の熱中症対策のための空調設備の設置、②古くなった体育館の床の修繕、③トイレのバリアフリー化、が行われました。

大井西中学校と駒西小学校の体育館トイレ改修では、改修前からあった男女別のトイレのリニューアルの他、バリアフリートイレが新たに設けられました。

避難生活を考慮して、体育館の照明を調光式LEDへ変更し、非常用発電設備の設置も実施されました。

**器具数も快適さも  
妥協したくない**

今回の改修事業により、19校すべての体育館トイレの床を湿式から乾式に変更しています。改修前はすべて和式便器だった男女別のトイレも、すべて洋式化を実現しました。大便器・小便器も自動洗浄タイプを設置。大便器の便座はすべて温水洗浄便座を採用しました。他にも、発電タイプの自動水栓や、スイッチを押すたびに自己発電を行うリモコンの設置など、避難生活を安心かつ快適に過ごせる工夫がなされています。

バリアフリートイレには、オストメイト対応設備やベビシート、ベビーカーといったさまざまな利用者を考慮した設備が備えられ

男子トイレ小便器。小便器下の床には汚垂れ石を設置。手前の小便器には手すりを備えた。



バリアフリートイレ入り口。大井西中学校は玄関の一部を利用してバリアフリートイレを設置した。サインもなるべく大きく、見やすいようにデザイン。



女子トイレ手洗いと掃除用流し。手洗いは自己発電タイプの自動水栓を採用。



女子トイレ。すべてのトイレには手をかざすだけで洗浄が可能なセンサースイッチと、自己発電式リモコンが設置されている。



バリアフリートイレには折りたたみ式のベビーシートやベビーチェアも備えられている。

「体育館にはもともとバリアフリートイレがありませんでした。大井西中学校は玄関の一部を、駒西小学校は跳び箱などを入れていた器具庫をなくして、トイレを新設しました」

限られたスペースの中、駒西小学校では男子トイレも個室の大使

ています。

バリアフリートイレの設置に際して、「最も苦労したのはスペースの捻出であった」とふじみ野市教育委員会教育総務課の長谷部悟さんは語ります。

「今あるスペースで、可能な限り器具数を確保できるよう注力しました。設計事務所さんには申し訳ないのですが、何度も図面を書き直してもらったり、男女別トイレの壁の位置を少し変えたりして、微

器ブースを二つ確保。「小便器を多くした方がいいのでは」という意見もあったといいますが、避難所になった際「二つのブースがお腹を壊した人で埋まってしまった場合を想定し、二つ設けた」とふじみ野市建築課の谷口博之さんは話します。



男女別トイレの入り口。壁の色はさわやかなブルーを採用することで、清潔感あふれる印象に。



ふじみ野市建築課の谷口博之さん

生まれ変わったトイレは、子どもたちも喜んで利用してくれそうです。

「改修によって、明るく、清潔感のあるトイレになってうれしいです」(長谷部さん)

調整を繰り返しました(谷口さん)

**新しいトイレの利用促進を期待**

改修前の体育館トイレは、汚れやにおいがひどく、あまり使用されていなかったといえます。

「式典や体育の授業前後も、子どもたちは体育館トイレを使わず、校舎のトイレを使用していたようです。その不便さを、何とか解消してあげたいという気持ちがありました」(谷口さん)



ふじみ野市教育委員会教育総務課の長谷部悟さん



男女別トイレと、バリアフリートイレの入り口。サインをなるべく大きく配置し、初めて訪れた人がトイレの選択に困らないよう配慮。



女子トイレ。さまざまな利用者を想定し、手すりや温水洗浄便座を設置した。



男子小便器は、床の清掃性に優れた低リップタイプの壁掛自動洗浄小便器。



駒西小学校の女子手洗い。大井西中学校同様、自己発電タイプの自動水栓を採用。限られたスペースながら、手洗い場の数もなるべく確保した。



女子トイレには姿見も設置。限られたスペースを余すことなく利用した。



バリアフリートイレにはベビーシートも設置されている。換気ができるよう、大きな窓と換気扇も備えた。



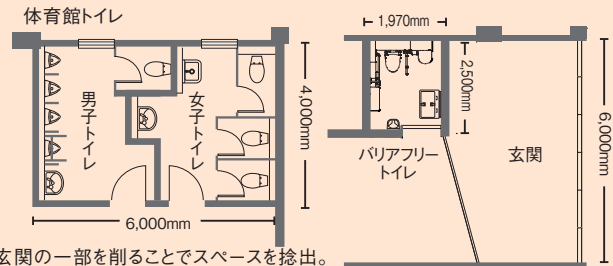
バリアフリートイレ入り口。オストメイト対応設備や乳幼児用の設備など、何が設置されているのかが一目でわかる。



バリアフリートイレ。広々とした空間にはオストメイト対応設備やベビーチェアを備えた。手洗い場も、なるべく大きくゆったりと設計。

## ふじみ野市立大井西中学校DATA

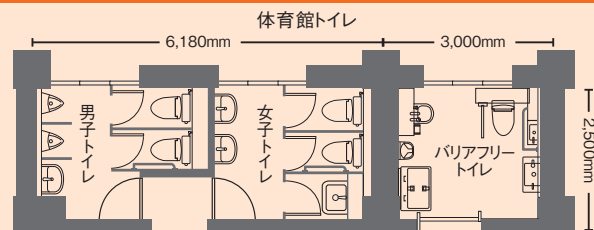
名称 ふじみ野市立大井西中学校  
所在地 埼玉県ふじみ野市  
大井武蔵野408-1  
生徒数 297名(2021年4月)  
施主 ふじみ野市  
設計・監理 新日本設計  
施工 埜和興産  
竣工年月 2022年2月



玄関の一部を削ることでスペースを捻出。バリアフリートイレを新たに設けた。

## ふじみ野市立駒西小学校DATA

名称 ふじみ野市立駒西小学校  
所在地 埼玉県ふじみ野市  
駒西3-6-1  
児童数 501名(2021年4月)  
施主 ふじみ野市  
設計・監理 桑子建築設計事務所  
施工 近藤建設  
竣工年月 2022年2月



器具庫をなくして、バリアフリートイレを設置。男女別トイレも「選挙の際に投票所にもなるため、ご高齢の方にも使いやすい洋式便器に」(谷口さん)